

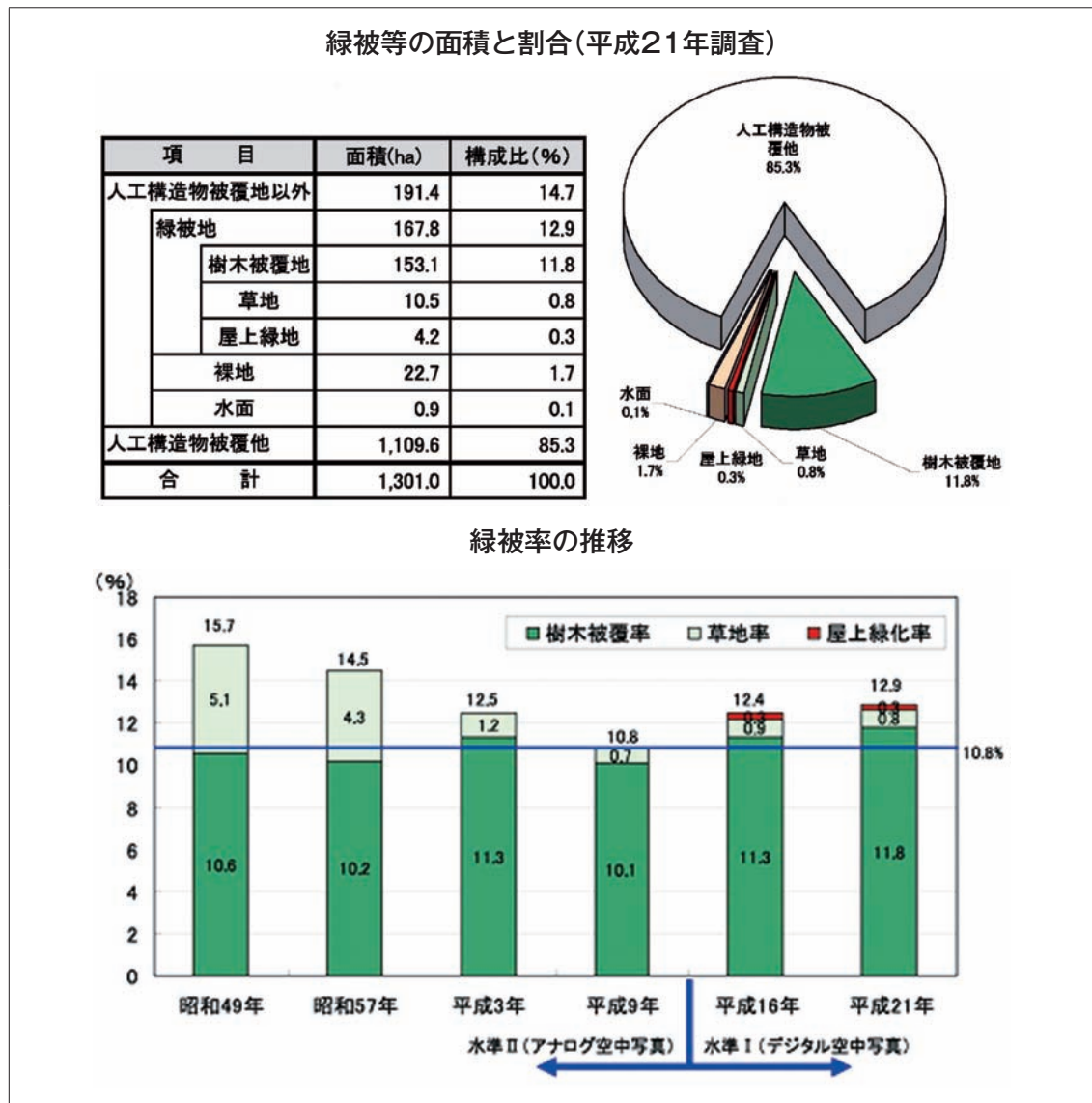
第2章 自然と共生する都市の実現に向けて

1 豊島区の現状

● 生物多様性に関する豊島区の状況 (資料編P.57)

▶ 緑被率の推移

区内の緑被率は、平成9年までは減少していましたが、平成16年以降は増加しています。バブル経済崩壊後、開発によるみどりの減少に歯止めがかかったことに加え、調査精度の向上により、街路樹、住宅地の庭木、植込みなどの小規模な緑被を計測できるようになったことも大きく影響しています。また、樹木被覆率の推移は横ばいであるのに対し、草地率が大きく減少していることが特徴的です。



(出典：豊島区みどりの基本計画)

▶緑地の状況

区内のほとんどは市街化されており、規模の大きな緑地は、学習院大学、雑司ヶ谷霊園、染井霊園などに限られます。

学習院大学内のスダジイ林は、都内でも希少な自然林です。また、区民の森（目白の森、池袋の森）なども規模は小さいですが貴重な緑地・水辺となっています。雑司ヶ谷霊園には、小規模ですが区内では貴重な草地在在しています。

一方、住宅地を中心に小規模な緑被が多く分布しており、住宅地等の庭木も重要なみどりとなっています。

▶生きものの状況

平成24年度に実施した区内の主な緑地における現地調査では、希少種も確認されています。学習院大学、雑司ヶ谷霊園は樹林性鳥類の生息環境として機能していると考えられました。昆虫類は樹林性の種が主に学習院大学で、草地性の種が主に雑司ヶ谷霊園で確認されました。

しかし、過去の文献と比較すると、雑木林や湿性環境、草地環境などに生育する種が減少しており、そうした生きものの生息・生育に適した環境も減少していることがうかがえます。

2 施策の実施状況

● 豊島区のいきもの情報共有事業（資料編P.57）

豊島区では、平成26年3月に策定した「豊島区環境基本計画（後期）」に掲げる「豊島区生物多様性地域戦略」に基づき、生物多様性の普及啓発・保全に向けて、区内の自然環境の状況を把握するため、持続可能なモニタリング調査を実施し、収集した情報を多様な主体と広く共有する仕組みを構築します。

平成27年度では、専門家による生物多様性モニタリング調査を行いました。また、区民参加型調査（イベント型）では、みらい館大明での「生きもの観察ツアー」や雑司ヶ谷霊園において「冬の野鳥観察会」を行いました。

実績内容	実績
区民参加型調査	2回
参加者数	34人



冬の野鳥観察会の様子

【関連する環境基本計画の施策の方向】

2(3)生物多様性についての普及啓発

2(4)生物多様性に関する情報の収集・共有・活用

● 在来つる植物の保全育成（資料編P.57）

生物多様性地域戦略の施策の中の「みどりと水の質の向上（生きものがすみ続けられるまちづくり）」で在来種を取り入れた緑化を推進すると掲げています。在来つる植物は、つるが巻きつく場所が確保できれば、狭い場所でも育てられるといった利点があります。平成27年度は、元々自生していた「目白の森」などで、7種のつる植物の保全育成を行いました。



「目白の森」の育成状況

【関連する環境基本計画の施策の方向】

2(1)みどりと水の保全・創出とつながりの確保

2(4)生物多様性についての普及啓発

● としま生きものさがしの実施（資料編P.57）

豊島区では、生物多様性の保全に向けて自然や生きものへの関心を高めていただくために、数少ない身近な自然に触れ、区内にどのような生きものがいるのかを

実績内容	実績
としま生きものさがし	1回
参加者数	19人

区民の皆さん自身が調べる「としま生きものさがし」を行いました。参加対象は、区内在住、在学、在勤者。調査ガイドブックに掲載した対象種などを参考に、調査期間中（7月～8月）に見つけた生きものを記録用紙に記入して報告していただきました。生きものの報告件数は、333件。



そのうち、セミ類が最も多く71件、続いてトンボ類34件、アゲハチョウ類33件。

お寄せいただいた情報は、環境省の公開型生物情報データベース「いきものログ」という情報共有サイトを活用し、区内の生きものの情報を広く共有していきます。

【関連する環境基本計画の施策の方向】

2(3)生物多様性についての普及啓発

2(4)生物多様性に関する情報の収集・共有・活用

3 成果指標

指標	基準年度 (H24年度)	現状 (H27年度)	目標 (H30年度)	備考
緑被率	12.9% (H21年度)	12.9% (H21年度)	13%	
生物多様性という言葉の意味を知っている区民の割合	19.4% (H23年度)	—	25%	現状値は国の調査結果
生きもの調査に参加する区民の数	—	119人	200人	5年間の累計
学校・区立公園のビオトープ数	10か所	14か所	15か所	
エコミューゼを活用したイベント・講座数	—	—	24回	年間の実施回数
生息・生育環境を評価する指標種の設定	—	—	10種以上	